

の集積がみられた。これらはグルコセレブロシドを含んだ網内系細胞（ゴーシェ細胞）の浸潤が疑われる領域であり、集積機序としては同部位での網内系細胞の増殖が考えられた。 $^{99m}\text{Tc}$ -MDP による骨シンチグラムではゴーシェ細胞の骨髓浸潤に対する骨新生部位に集積がみられた。 $^{67}\text{Ga}$ -citrate シンチグラムではゴーシェ細胞浸潤が強いと思われる骨部に集積がみられたが、その機序については不明である。

#### 14. 全身に広汎な $^{67}\text{Ga}$ 集積増加を認めたサルコイドーシスの 1 例

岡田 吉隆 大嶽 達 西川 潤一  
町田喜久雄 飯尾 正宏 (東大・放)

22歳男性のサルコイドーシスの症例を報告する。胸部 X-P 上の BHL 所見で発見され、全身のリンパ節・耳下腺・涙腺の腫脹、および上肢を中心とする多数の皮下結節を伴っていた。検査所見上は白血球増多・血清 P 上昇・ACE 活性上昇などを認め、また尿崩症も合併していた。 $^{67}\text{Ga}$  シンチグラムにおいて、両側耳下腺・涙腺への取り込み亢進が認められ、さらに頸部・縦隔・両肺門部・鼠径部などに Ga 集積が見られた。また、上肢を中心とする皮下結節にも明らかな Ga 集積を認めた。このような皮膚のサルコイドーシス病変を Ga で描出した報告は文献上数少ないものである。

#### 16. 血中サイログロブリン測定法の基礎的ならびに臨床的検討

九島 健二 原 秀雄 佐藤 龍次  
伴 良雄 (昭和大・三内)

血中サイログロブリン (Tg) 濃度を、Henning 社製 RIA-gnost Tg Kit を用い、基礎的ならびに臨床的検討を行った。インキュベーション時間は、第一16時間、第二1時間、室温で行い、アッセイ内変動係数は10.6%、アッセイ間のそれは10.1%で、交叉性はなく、回収率は良好で、臨床的応用に満足する Kit であった。未治療 Graves 病患者  $59.9 \pm 55.9$  (7.8~200.3) ng/ml、橋本病患者  $38.9 \pm 23.9$  (16.5~88.0) ng/ml、単純性甲状腺腫患者  $17.9 \pm 15.5$  (6.25~67.0) ng/ml、濾胞状腺腫患者  $97.0 \pm 42.4$  (36.0~150.0) ng/ml、腺腫様甲状腺腫患者  $107.5 \pm$

$110.7$  (19.0~320.0) ng/ml、甲状腺癌患者  $259.9 \pm 370.5$  (6.2~800) ng/ml であり、正常者に比して、いずれも有意に高値を示した。甲状腺癌では、7例中2例で800 ng/ml 以上の異常高値を示した。Graves 病では寛解群は、未治療群に比して有意に低値を示したが、正常者よりは高値を示した。抗甲状腺剤投与群では、大量投与群で維持量投与群より高値を示した。

#### 17. TSH-receptor 抗体測定法の基礎的ならびに臨床的検討

石川 直文 盧 在徳 小柳 博司  
百溪 尚子 齊藤一二三 伊藤 國彦  
(伊藤病院)  
伴 良雄 (昭和大・三内)

TSH 受容体抗体の測定には Smith の Kit が現在広く用いられている。われわれは本 Kit を用い基礎的ならびに臨床的検討を行った。基礎的検討では、Intra assay および Inter assay の変動係数はおおよそ 1.6~12.4%、2.4~19.6% と比較的良好な結果が得られた。未治療バセドウ病患者の全血清とそれより分離した IgG による TRAb 活性値の比較では、両者には有意な正の相関が認められた。TRAb 測定の際の 1st インキュベーション時間をプロトコルドおりの15分の他に60分、120分とし、3者の TRAb 活性値を比較してみた。3者の平均値を t 検定したが有意差はなく、1st インキュベーション時間は従来どおりの15分で問題はなかった。臨床的検討では、バセドウ病と nongoitrous hypothyroidism の両疾患で TRAb が高値を示した。未治療バセドウ病での陽性率は全血清で 88.0%、IgG のそれは 92.0% と高く、本疾患診断の指標の1つとして TRAb が使用できると思われる。

#### 18. CEA 測定用 3 RIA キット (ダイナボット、第一、栄研) の比較検討

小堺加智夫 中込 俊雄 丸山 雄三  
(東邦大・中放)  
金子稜威雄 佐々木康人 (同・放)

今回われわれは同一試料による国産3キット、ダイナボット CEA リアビーズ、CEA キット第一、CEA 栄研